

# 政治家による 反論を装った 言論封殺?

種市 靖行 (白山市・整形外科)

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その70

た企業への投資を進めていく考えに、自然エネルギーだけでなく原発への投資を加えようという動きを危惧し、カーボンニュートラルという一面だけで原発を推進するべきではないという趣旨であり、「日本ではエネルギー政策として原発を推進してきたが、その結果想定外の原発事故が発生したため大きな問題になっている。EUにはその過ちを繰り返してほしくはない」ということを伝えるものです。また、「多くの子ども達が甲状腺がんに苦し

み」との文意も、冒頭に述べた通りの事実を記載したに過ぎず、放射線の影響による甲状腺がんなどは明言していません。しかし、多数の政治家から寄せられている反論は甲状腺がんの患者さんが発見されている事実に対してではなく、一律に「放射線の影響かどうか」という科学論争にすり替えるものとなっています。そしてその答えは、彼らも抗議文の中に記載している通り、国や国際機関の見解でもまだ不確定なままです。

その上で、環境相は「多くの子ども達が甲状腺がんに苦しむ」の表現は、「放射線の健康影響に関する差別や偏見につながる恐れがある」とつまずき、風評払拭のため適切ではないとの趣旨の批判を行っています。さらに、福島県知事の抗議文は、「つきましては、福島県の現状について述べられる際は、本県の見解を含めて、国、放射線医学を専門とする医療機関や大学

等高等教育機関、国連をはじめとする国際的な科学機関などによる科学的知見に基づき、客観的な発信をお願い申し上げます」との文で締めくくられています。これには福島県側の見解を併記しない発信は控えるようにという、言論封殺にも近い理不尽さを感じます。

これらの抗議は原発の維持を目的とした政治的主張であり、実際に甲状腺がんに苦しんでいる子どもたち

には全く寄り添っていません。むしろ、彼女ららを福島県の復興の足を引っ張る「風評加害者」であるとし、その存在を否定する行為です。特に、6名の県民健康調査で発見された甲状腺がん患者が、1月27日に東京電力を提訴するに至ったこのタイミングにおいて、県民健康調査を主管する福島県知事や公害行政を司る環境相がこのような抗議をするのは、より政治的なおおいを感じます。

本来、彼らがすべきことは放射線の影響の有無を明らかにし、もし影響があるのであれば不安を感じている検査対象者全員に対する謝罪と補償、そしてもし影響がないと明らかになった場合は発見された甲状腺がん患者さんに対する医療・経済面の十分なサポートを行うことだと思われま

す。政治的主張のため被害者を切り捨てるような行為は、見逃すわけにはいきません。

今回も新型コロナウイルス対策の一環として会議時間を短縮させるために、協議事項の検討を中心に行った。オミクロン株への対応のために国や県から多くの通知や資料が発出されるとともに、濃厚接触者への対応も日々変更されるなど、大変困難な状況が続いている。ワクチンも3回目接種の前倒しや、小さな子どもへの接種が開始されるようとしているが、子どもへのワクチン接種が本当に正しい政策なのかどうかについて熱い議論が展開された。

また、3月に迫る総

## 会員投稿

# 子どもへのワクチン接種

武藤 一彦 (白山市・小児科)

福島県ではチェルノブイリの先例から、原発事故後に小児甲状腺がんが増加することが危惧されたため、子ども達の健康を見守るとして考えの元に2011年から甲状腺検査が開始されました。その結果として、現在までに300人弱の甲状腺がんが発見されています。

このような中、5人の元首相がEUに送った書簡の「多くの子ども達が甲状腺がんに苦しむ」という一文に対し、山口環境大臣・内堀福島県知事ら多数の政治家を中心とした抗議がなされ、一部では大きな論争になっていきます。

臨床に携わる小児科医として、オミクロン株は軽症で終わることが多いという状況の中、小児には危険かもしれないワクチンを接種するというのが妥当か、多くの議論が必要な問題と

思います。それなのに、インフルエンザワクチンは、接種を推奨されるワクチンとして存在しています。近年はインフルエンザの報告はほとんど見られませんが、インフルエンザワクチンを希望して来院する子どもたちも多々います。それだけインフルエンザワクチンは定着しています。インフルエンザワクチンは、お年寄りへの感染も防ぐという社会的な適応と、当然本来の目的であるハイリスク児

にも起る脳症を防ぐ可能性のあるワクチンと考えられます。接種時にアナフィラキシーや健康被害などの副作用が「起きませんように」と祈る気持ちは常にあります。しかし、インフル

エンザ罹患後の急激な経過をとる脳症という病態を防ぐ手立ては、ワクチンに期待する以外方法がありません。先天的に肺や心臓に病気が、インフルエンザワクチン

を希望して来院する子どもたちも多々います。それだけインフルエンザにかかって家に持ち込むと、同居しているお年寄りに感染し、肺炎で亡くなることも多いです。学校の集団接種がなくなって、お年寄りの感染が多くなっている時、この現象が問題となり、子どもたちへのワクチン接種が再開されました。

なぜ集団接種が中止されたのか? ワクチンは患者、あるいは子どもに感染しては保護者が、その必要性を認め接種するべきであるという立場を重要視されたか

らです。しかし、有料でも必要なワクチンを接種するという意識が育っていない日本では、当然接種率は低下し、感染が増えま

そんなわけで、インフルエンザワクチン接種が推奨されたのですが子どもは有料、お年寄りは公費が出るという不公平な状況が続いています。

現在のオミクロン株の大流行では、ワクチン未接種の健康な子どもたちが罹患し、何の問題もなく経過しています。しかし、子ども

の感染者が増えるにつれて、重篤な状態を招く可能性も否定できません。コロナワクチンも、その流行を少数、かつ軽症に抑え、子どもたちを守るためのワクチンとして捉えるべきで

らです。しかし、有料でも必要なワクチンを接種するという意識が育っていない日本では、当然接種率は低下し、感染が増えま

そんなわけで、インフルエンザワクチン接種が推奨されたのですが子どもは有料、お年寄りは公費が出るという不公平な状況が続いています。

現在のオミクロン株の大流行では、ワクチン未接種の健康な子どもたちが罹患し、何の問題もなく経過しています。しかし、子ども

の感染者が増えるにつれて、重篤な状態を招く可能性も否定できません。コロナワクチンも、その流行を少数、かつ軽症に抑え、子どもたちを守るためのワクチンとして捉えるべきで

らです。しかし、有料でも必要なワクチンを接種するという意識が育っていない日本では、当然接種率は低下し、感染が増えま

そんなわけで、インフルエンザワクチン接種が推奨されたのですが子どもは有料、お年寄りは公費が出るという不公平な状況が続いています。

現在のオミクロン株の大流行では、ワクチン未接種の健康な子どもたちが罹患し、何の問題もなく経過しています。しかし、子ども

の感染者が増えるにつれて、重篤な状態を招く可能性も否定できません。コロナワクチンも、その流行を少数、かつ軽症に抑え、子どもたちを守るためのワクチンとして捉えるべきで

らです。しかし、有料でも必要なワクチンを接種するという意識が育っていない日本では、当然接種率は低下し、感染が増えま

そんなわけで、インフルエンザワクチン接種が推奨されたのですが子どもは有料、お年寄りは公費が出るという不公平な状況が続いています。

現在のオミクロン株の大流行では、ワクチン未接種の健康な子どもたちが罹患し、何の問題もなく経過しています。しかし、子ども

の感染者が増えるにつれて、重篤な状態を招く可能性も否定できません。コロナワクチンも、その流行を少数、かつ軽症に抑え、子どもたちを守るためのワクチンとして捉えるべきで



## 第18回理事会点描

# 新型コロナ、診療報酬改定…課題は山積

(2月1日・14人出席)

会の準備に時間を費やした。工藤事務局長から執筆段階ではあるが2021年度活動報告並に、協議事項の検討を中心に行った。オミクロン株への対応のために国や県から多くの通知や資料が発出されるとともに、濃厚接触者への対応も日々変更されるなど、大変困難な状況が続いている。ワクチンも3回目接種の前倒しや、小さな子どもへの接種が開始されるようとしているが、子どもへのワクチン接種が本当に正しい政策なのかどうかについて熱い議論が展開された。

また、3月に迫る総

【齊藤 記】